



仙台高等工業学校との対戦に勝利した第二高等学校野球部  
(仙台市博物館蔵)

# せんだいのスポーツむかし話

## 仙台野球こぼれ話

仙台市博物館 学芸企画室 中武 敏彦

### 第1回

東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、今月号からは、宮城県内にゆかりのあるスポーツの歴史や象徴的な人物等をご紹介します。

#### はじめは学生スポーツ

野球は日本で最も親しまれている近代スポーツの一つです。仙台では明治二十一年(一八八八)頃、第二高等中学校(後の第二高等学校「二高」、現在の東北大学)のアメリカ人教師ハールズが、生徒に「ベースボール」を教えたのが野球の始まりとされます。

プロ野球誕生以前に花形であったのが、早慶戦に代表される学生野球でした。仙台でも二高と仙台高等工業学校(現在の東北大学工学部)との定期戦は、両校の校章から「蜂萩戦」と呼ばれ、市民に親しまれました。学生野球で試合前後に両チームが本塁を挟んで整列し、挨拶を交わすのは、二高の野球部長である古川邦彦の提案で始められ、恒例となったものです。

現在の高校にあたる中学校でも、明治三十三年に宮城県第一中学校(現在の仙台一高)と宮城県第二中学校(同仙台二高)が初めて試合を行いました。以来、両校の対抗戦は応援合戦も含めて仙台の風物詩となりました。

#### 大衆スポーツへの広がり

大正時代になると野球は大衆スポーツとして広がり、仙台でも少年大会が開かれたほか、実業団やクラブチームも多数結成されました。大正九年(一九二〇)からは仙台実業団野球大会が毎年開催され、特に仙台鉄道管理局野球団と仙台素人倶楽部は、全国屈指の強豪チームとして名を馳せました。

昭和九年(一九三四)には宮城県営八木山球場で日米野球が開催され、

二万人の観客が本場アメリカの野球を楽しみました。このときアメリカ大リーグチームの一員として、ベーブ・ルースが来仙したことは有名な話です。

#### プロ野球を創設した押川清

仙台で日米野球が開催された昭和九年、大日本東京野球倶楽部(読売巨人軍の前身)が創設され、日本でも本格的に職業野球(プロ野球)の時代が幕を開けました。プロ野球の誕生を語るうえで欠かせない人物に、仙台出身の押川清(一八八一〜一九四四)がいます。押川清は東北学院を創設した押川方義の次男として、仙台で生まれました。早稲田大学野球部で活躍した後、押川は大正九年に日本で最初の職業野球球団である「日本運動協会」を創設しました。その後も名古屋軍(中日ドラゴンズの前身)などの創設や、後楽園スタジアムの建設に携わりました。

そんな押川が創設に深く関わった球団の一つに、昭和十二年設立の後楽園イーグルスがあります。東京の球団でしたが、仙台出身の押川が関わったイーグルスの愛称が、七十年近い時を経て仙台の地に舞い降りたことに不思議な縁を感じます。



押川清  
(東北学院史資料センター提供)

## 仙台の美と出会う

—福島家三代の書画・工芸品コレクション—  
4月24日(金)～6月7日(日)

明治から昭和にかけて仙台の経済界で活躍した福島家が収集し、のちに福島美術館によって保存・公開されてきた約3,000点の美術工芸品等の中から絵画や茶道具・やきものなど優品を紹介します。福島家の人々が郷土・仙台で出会い、愛した美の数々を楽しんでみませんか。

【観覧料】常設展料金でご覧いただけます。(30名以上の団体は( )内の料金)  
一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円)  
※会期等が変更となる場合があります。詳細は博物館HPをご覧ください。



朱画達磨  
中林権竹筆  
明治～大正時代

福島美術館の優品を  
30年ぶりに当館で展示



(上)鶯鳥図 荒川晴海筆 江戸時代後期  
(右)左甚五郎図 小林清親筆 明治～大正時代  
掲載資料はいずれも社会福祉法人 共生福祉会蔵



仙台市博物館  
SENDAI CITY MUSEUM

TEL:022-225-3074 ▶4月の休館日 毎週月曜日

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)▶ツイッター @sendai\_shihaku

▶博物館HP

仙台市博物館

検索